

# 県業務の外部委託（アウトソーシング） による業務改革について

H16.10.29

高知県総務部業務改革推進室

## いまは・・・

- ◆ 県民ニーズの多様化・複雑化
- ◆ 県財政の危機的状況・大幅な財源不足
- ◆ 県庁特有の複雑な事務処理がコスト高を招くことも
- ◆ 厳しい就職環境
- ◆ ……

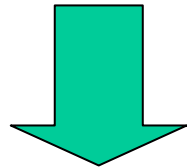
# このままていくと・・・

【県民へのしわ寄せ】


◆ 受益の減少と負担の増大

【県庁内部】

◆ 民間並みのリストラ



◆ 自治体破産を意味する財政再建団体  
へ転落



急激な変化、  
選択肢のない  
強制的な改革

# 自治体改革の手法

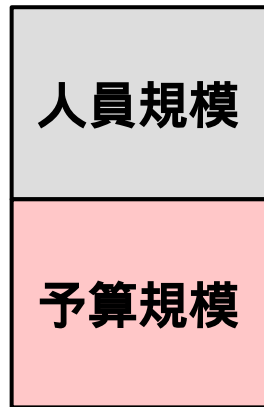
- 行政改革
- 財政構造改革
- IT化・集中化による業務改善
- 外部委託 (アウトソーシング)
- ……

# なぜ外部委託（アウトソーシング） なのか

- 県庁のスリム化は不可避。自発的な自治体改革が不可欠。（発注に当たっては、現コストの正しい算出と分析が必要）
- 民間や地域の知恵とノウハウ・資源の活用
- 県庁は直接担うべき業務に集中
- 南海地震対策などの新たな行政課題にも対応していく
- 行政事務という新たな分野での雇用機会の創出

# 持続可能な自治体経営への道

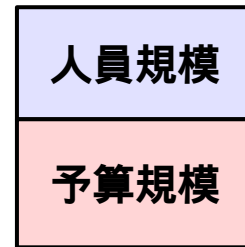
現在の自治体組織



新たな行政課題への対応



持続可能な自治体組織



目的

- 県民サービスの質の向上
- 民間との協働による人材育成、雇用創出
- 県民の参画、地域の活性化
- 県庁の自発的なスリム化

移行

コーディネート、支援



MB…マイクロビジネス (小規模企業や個人事業者)

# 外部委託 (アウトソーシング)が もたらす変化

## ◆ 県民・民間と県庁の関係が変わる

県民・民間と県庁の最適な機能分担

(それぞれの強みを生かした組み合わせ)

県民・民間と県庁の新しいつき合い方

(ともに県民生活を支えるパートナー)

## ◆ 県庁の仕事の仕方も変わる

県が直接担うべき業務への集中

(手順重視から成果重視へ)

管理と評価の能力養成

政策立案能力と政策の  
良し悪しが問われます

アウトソーシングした業  
務の品質管理と評価能  
力が問われます

# 外部委託 (アウトソーシング) 後の イメージ

## 県民・民間

- ◆ 県民は多様で質の高いサービスを享受
- ◆ 公共に関わる県民の増加
- ◆ 民間の技術力と創意工夫によるビジネスチャンスの拡大
- ◆ 雇用の拡大
- ◆ 地域の知恵と資源の活用

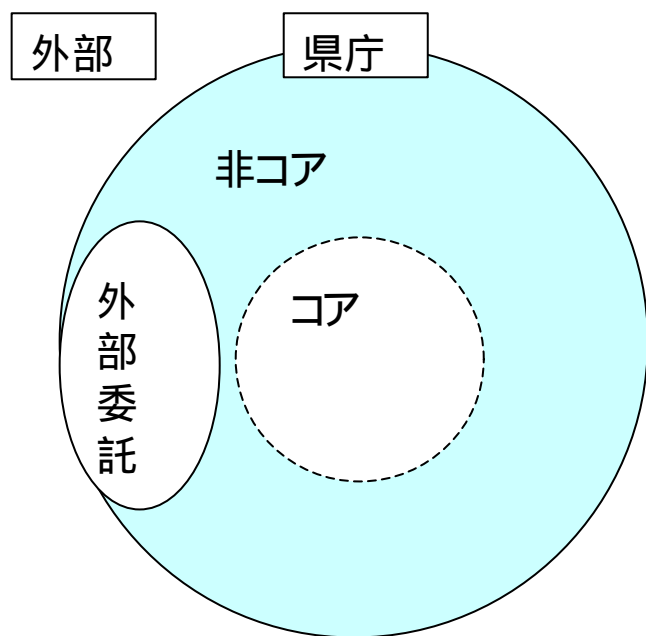
## 県庁

- ◆ 自治体経営の持続
- ◆ 県益をリードする政策集団への質的転換
- ◆ 県民・民間とともに仕事をする開かれた県庁へ
- ◆ 県民・民間と職員が仕事を通じて切磋琢磨
- ◆ 大量退職時代を迎え職員数が減少

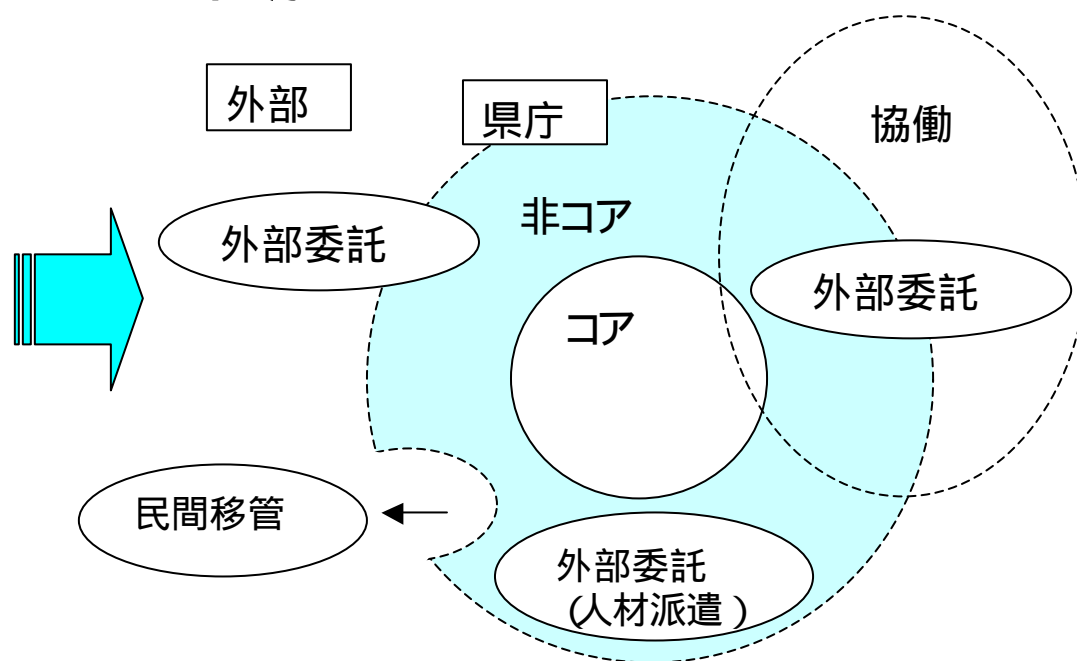


# 外部委託 (アウトソーシング) の形態

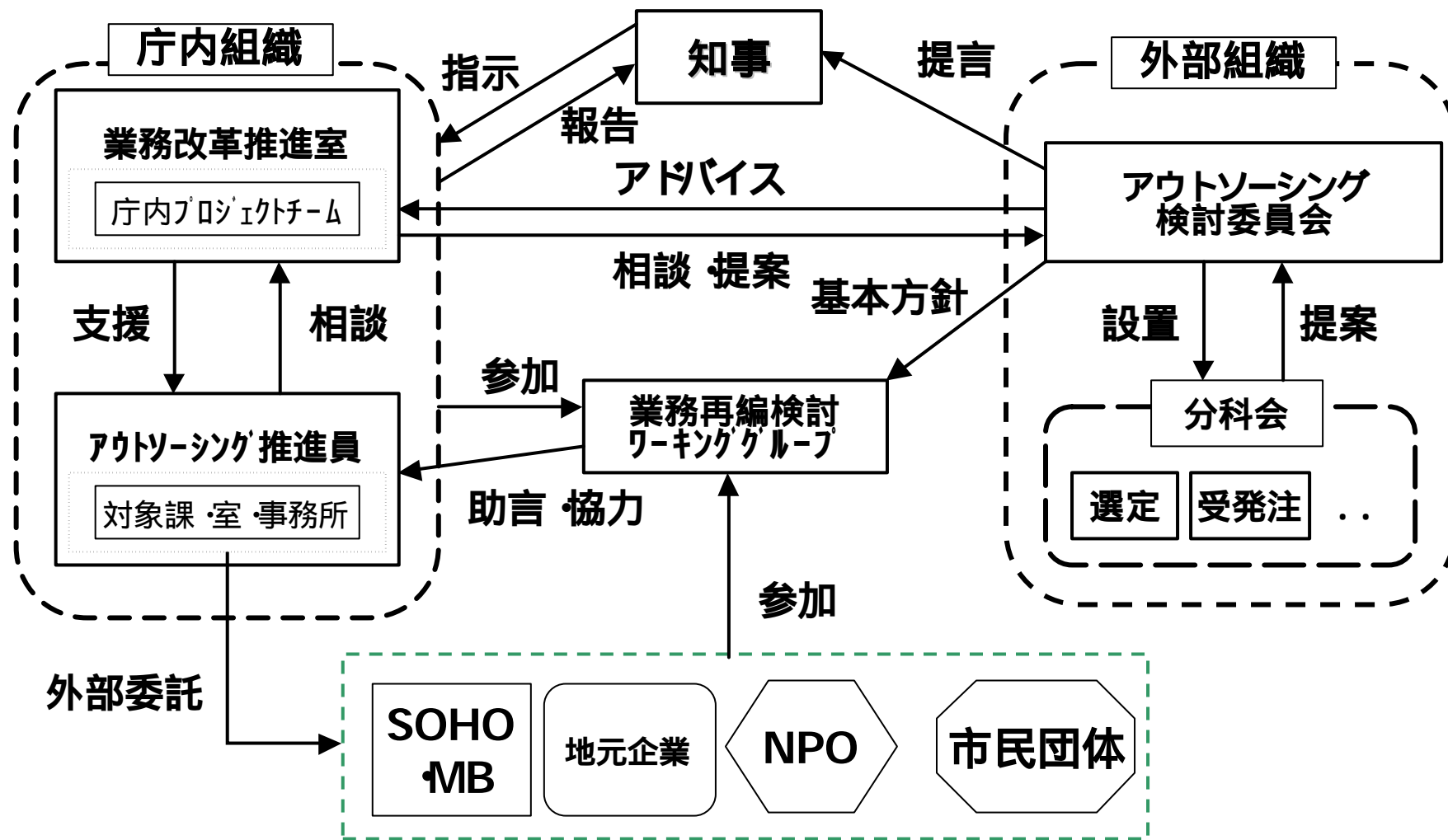
これまで



これから



# 推進体制 (全体)



MB…マイクロビジネス (小規模企業や個人事業者)

# アウトソーシング検討委員会

## 任務

- (1)アウトソーシングを行う業務の選定に関する事
- (2)受託者の確保と育成方法に関する事
- (3)発注要件に関する事
- (4)その他、アウトソーシングの推進に関する事

構成 民間委員 8名

任期 平成 19年 3月 31日まで

## 分科会の設置

「選定分科会」

役割 :アウトソーシング対象課室の検討、業務評価

「受発注分科会」

役割 :受発注の仕組み・品質評価基準・調達方式の検討

## 第1回アウトソーシング検討委員会 (H16.2.23開催)

### 検討委員会の基本方針

- 知事部局を対象に、3割～5割(3年間)をアウトソーシング
- 平成16年度からアウトソーシングを開始
- 検討委員会は、電子的にも開催する(電子ディスカッション支援システムの活用)
- 初年度の対象課室や外部委託の仕組みの詳細は、分科会を設けて検討
- 各分科会からの提案を受けて、検討委員会で検討・決定

## 第2回アウトソーシング検討委員会 (H16.4.23開催)

### 提言の内容

- 第1次対象3課室の提案  
職員厚生課・管財課・建築課  
(スタートの合図。いずれも県庁内部業務担当)
- 外部委託準備チーム設置の提案  
役割：受発注を動かす準備を行う実働チーム  
(県庁・分科会メンバーの混成)
- 数値目標の算定ベース  
対象課室のリクエスト・実態に合わせて設定

## 第3回アウトソーシング検討委員会 (H16.8.3開催)

### 提言

- 第2次対象の提案（県からの提案の承認）  
福祉指導課・海岸課  
総務(会計・庶務)事務を外部委託に向けて集中処理
- 業務評価の実施  
選定分科会の機能を追加し、適正な業務の洗い出しについての評価と助言を行う  
(当分科会への委員追加も可)
- 業務再編検討ワーキンググループの提案  
受発注分科会の機能を追加し、分科会のもとに置くワーキンググループに、受注者となる可能性がある民間事業者等も参加して、外部委託に向けた業務再編のあり方を検討する

# アウトソーシング検討委員会の活動状況

- 電子ディスカッション支援システムによる討議事項

受皿の育成方法

外部委託情報の広報・宣伝のあり方

地域活性化の仕組みづくり など

- 分科会の開催

10月18日 受発注分科会開催

討議テーマ：

登録審査制度、市町村キャラバン、

市町村受け皿実験、受発注教育プログラムなど

10月27日 選定分科会開催

討議テーマ：

選定された課室の外部委託についての検討状況等

検討状況の公表と提案の募集

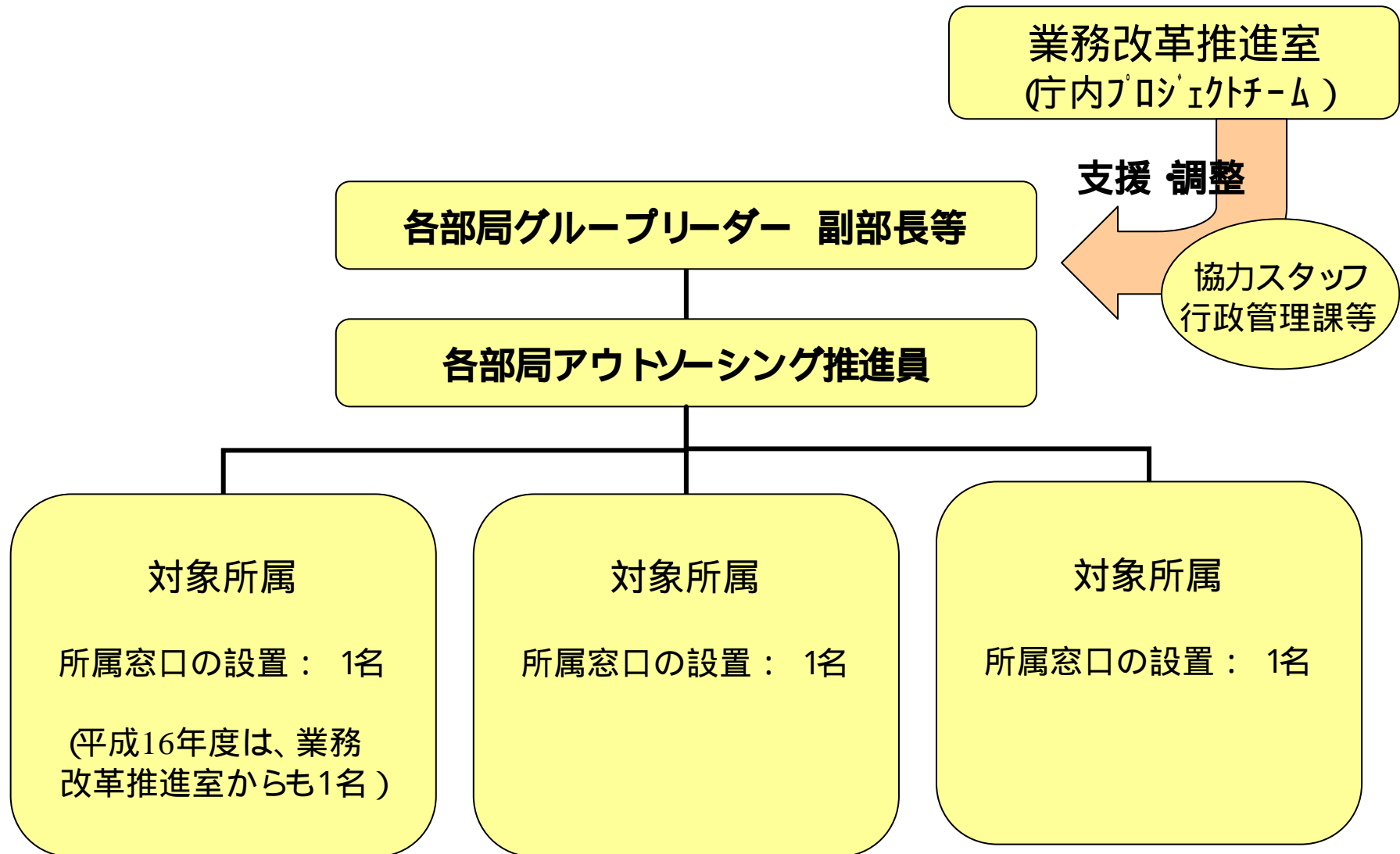
## 庁内の推進体制

- 各部局にアウトソーシング推進員を配置予定  
役割：全庁的なアウトソーシングの推進（業務改革のスピードアップ）
- 庁内プロジェクトチームの設置(H16.4.28)  
役割：県が直接担うべき業務（コアコンピタンス）の明確化  
アウトソーシング後の県の姿の提示 など  
庁内プロジェクトチームからの提案(H16.6.8)  
県が直接担うべき業務（コアコンピタンス）とは  
県の独自性が発揮される業務  
管理責任が厳しく問われる業務  
未来の県益をリードすることが期待される業務  
公平性・公正性が強く求められる業務  
かけがえのない価値を失うことになりませんか？



# 庁内の推進体制 (イメージ図)

## アウトソーシング推進グループ(各部局に設置予定)



# 知事部局アウトソーシング3ヶ年実施イメージ

## 五月雨方式

H16.10.29



# 所属ごとの検討の進め方

## 標準スケジュール

### • 前半

- 1 業務の項目整理と数値目標の設定  
業務整理の評価（1月目）
- 2 現状の業務手順の調査・分析
- 3 アウトソーシングのための課題分析と解決の方向性の検討（2月目）
- 4 受け皿の選定検討
- 5 業務改善による業務の再編成と新業務フローの確定
- 6 発注見通しの作成  
発注業務の評価（3月目）

### • 後半

- 7 発注スペック・運用ルール・コスト計算方式の決定と調達方式・契約内容の決定（4月目）
- 8 品質管理基準の策定
- 9 予算計上  
委託効果の事前評価（5月目）
- 10 発注（6月目）
- 11 事業評価